



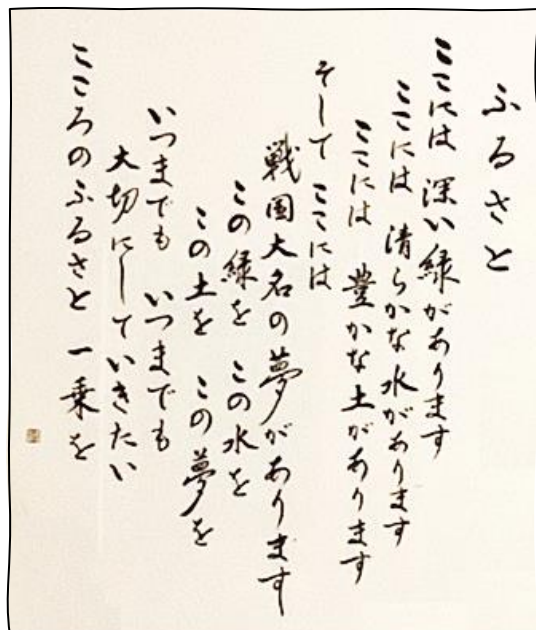
一乗小だより

深く考える子
進んで取り組む子
思いやりのある子

福井市一乗小学校 第28号
令和6年10月8日発行
TEL 43-2024 FAX 43-2025
E-mail: itijo-e@fukui-city.ed.jp

ふるさと

9月29日に行われた一乗公民館彼岸まつりでは、一乗児童クラブの子どもたちが「ふるさと」と「ヨサコイ」を披露しました。コロナのためしばらく披露がなく、昨年と今年の夏まつりでも同じくコロナのため披露できませんでした。ようやく今回数年ぶりに披露することができました。



「ふるさと」は平成6年度に参加した、JA 主催「チビッコ寺子屋農業体験発表会」の劇中で使う群読（詩や物語をみんなで読むこと）として、当時の教職員によって作られました。子どもたちの群読の練習を通して「一乗小らしさとは何か」と考えるようになり、「木々＝緑」「一乗谷川＝水」「田畑＝土」「遺跡＝夢」に辿り着き、子どもたちにとって一乗の自然や遺跡は普段目にする「当たり前」の光景ですが、その「当たり前」が実はとても「素晴らしい」ものであり、その「素晴らしさ」に子どもたちが気づくと共に、もっと一乗に誇りをもってほしいという願いを『ふるさと』に込めたそうです。

そのおよそ10年後、同じく当時の教職員によって旋律がつけられました。子どもたちはこの詩を行事の中で年数回程「群読」という形で発表していましたが、詩にある一乗の緑、水、土、自然、歴史の素晴らしさをより実感できるものにできないかとの思いを持って音楽に変えたそうです。この音楽は、豪雨で壊滅した校舎の片付けをほぼ終えた頃に作曲され、今と同じ音楽室で詩を何度も読み返ししながら情景を想像し、詩の抑揚を考え、誰もが口ずさみ、飽きの来ない歌として作ることを心掛け、完成されました。

「ふるさと」という楽曲は世の中に数曲ありますが、一乗小で生まれた『ふるさと』を大切にしてください。これからも歌い継がれていくことを願っています。

余談ですが、作詞した先生はその後、エレクトーン奏者の土田先生が作曲した「戦国絵巻」を一乗小学校に取り入れ、その後長く演奏されることになったきっかけを作っています。

次に、音楽発表会の開演前プレゼンで紹介しました「戦国絵巻」誕生とこれまでの歩みについて紹介します。ぜひ、ご一読ください。これは、これまでの調査に基づき作成したものです。しかしながら、実際とは異なる内容があった場合には、お知らせいただけると幸いです。

戦国絵巻の歩み

平成8年10月、福井市文化会館で行われた第38回福井市小学校連合音楽会（以下、連音）で5・6年生がリコーダー演奏を披露しました。会場いっぱいにリコーダーの美しい音色が響く、すてきな演奏でした。



平成8年度



平成9年度

しかし、帰りのバスの中で子どもたちはがっかりしていました。当時の連音は合唱を中心とした発表が多く、人数の多い学校の迫力のある発表に子どもたちが押されてしまっていたのです。

そこで、「人数が少なくても、楽器の演奏で子どもたちが自信をつけられるような発表をさせたい」と、当時の先生たちは思いました。

まずは曲探しから。しかし、なかなか見つかりません。そして、平成9年、夏まつりで演奏していた土田先生の演奏と出会いました。「これだ!」

先生はすぐに、土田先生に連絡をとりました。しかし、子どもたちがリコーダー等の楽器で演奏できる楽譜はなく、土田先生は子どもたちのために、リコーダーと太鼓のために楽譜を作ってくれました。連音まであと2か月のことでした。

その後、学校には無かった太鼓を城戸ノ内自治会から借りて練習を始め、ついに平成9年10月に演奏を披露することができました。現在まで続いた「戦国絵巻」の誕生です。

それから27年間、演奏され続け、コロナで連音が中止になっても楽曲は引き継がれました。この間、太鼓も寄贈していただき、平成23年には今の陣羽織衣装での演奏姿となりました。「戦国絵巻」は今年、一乗小での演奏を完結しましたが、今後は地区やその他での演奏につながっていくことを望んでいます。



平成13年



平成14年度



平成15年度



平成23年度

..... 切 り 取 り

学校へのご意見やご感想をお知らせください。

こちらからも可 →→→

年 名 前

(無記名でも構いません)

